

科目名	健康生活看護学(成人・慢性期)			ナンバリング	PEN243	授業形態	演習
対象学年	2年	開講時期	後期前半	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	狩谷恭子	担当教員	縦山定美				

授業の概要	成人期にある人の健康課題として、健康の慢性的な揺らぎとしての慢性期の病態生理について、人体の構造と機能に基づいてとらえるとともに、それらに特徴的な治療方法および看護援助技術について学修する。具体的には、糖尿病、肝硬変および肺気腫などを取り上げ、当該慢性疾患の特徴やフィジカルアセスメントなどの看護について学ぶ。また、特定の診療科で用いられる最新の診療技術や看護援助技術についても学修する。
到達目標	1. 健康生活の慢性的な揺らぎをもたらすもの／慢性疾患とセルフマネジメントについて記述できる。 2. 慢性疾患(糖尿病・肺気腫・心不全・腎不全・肝硬変)のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病の知識に基づいて記述し、慢性疾患をもつ患者に必要な看護について説明できる。 3. 慢性疾患に罹患した人の特徴および看護について記述できる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	予習(資料の閲覧)と復習(レポート作成)を必ず行うこと。予習と復習それぞれおおよそ90分の学習時間を確保すること。
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】
	<input type="radio"/> 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
	<input type="radio"/> 2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。
	<input type="radio"/> 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。
	<input type="radio"/> 4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	<input type="radio"/> 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
生活者としての成人について、生涯の連続性の上でとらえた対象理解および看護援助のための理論と援助方法の活用方法について説明し実施できる。	生活者としての成人について、生涯の連続性の上でとらえた対象理解および看護援助のための理論と援助方法の活用方法について説明し、具体的な治療方法および看護援助技術について説明し実施できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
状況設定課題演習	○	○	○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	1. 授業内レポートおよび試験の解答用紙は原則返却しない。レポートや試験に関する内容については、個別に指導を希望する学生には対応する。 2. 期末試験の成績は学生からの希望があれば、期間を設けて開示する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	健康生活の慢性的な揺らぎをもたらすもの／慢性疾患とセルフマネジメント	健康生活の慢性的な揺らぎをもたらすもの／慢性疾患とセルフマネジメントについて説明する。	
	第2回	慢性疾患／肺気腫と看護	1. 肺気腫発症のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 肺気腫の症状とアセスメントの視点および看護について説明する。	
	第3回	慢性疾患／心不全と看護	1. 心不全発症のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 心不全の症状とアセスメントの視点および看護について説明する。	
	第4回	慢性疾患／腎不全と看護	1. 腎不全発症のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 腎不全の症状とアセスメントの視点および看護について説明する。	
	第5回	慢性疾患／肝硬変と看護	1. 肝硬変発症のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 3. 肝硬変の症状とアセスメントの視点および看護について説明する。	
	第6回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(1)	1. 糖尿病発症のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 糖尿病の症状とアセスメントの視点について説明する。	
	第7回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(2)	1. 糖尿病に罹患した人の特徴について説明する。 2. 糖尿病に罹患した人への看護(フィジカルアセスメント・血糖測定、セルフケア支援)とその特徴について説明する。	
	第8回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(3)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第9回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(4)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第10回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(5)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第11回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(6)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第12回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(7)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第13回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(8)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第14回	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(9)	糖尿病に罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第15回	まとめ	慢性疾患をもつ人の特徴と看護の視点を説明する。	
		試験	期末試験を実施する。	
授業の進め方	講義・質疑応答による授業内容を理解し、課題や状況設定に基づく演習を行い、各授業毎の課題レポートを作成する。			
授業外学習の指示	復習のためのレポートと、当該授業の理解を促すための事前学習を提示する場合がある。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)			

教科書	ナーシング・グラフィカ セルフマネジメント 成人看護学③
参考書	授業の中で指示する
参考URLなど	授業の中で指示する
その他	